

# 知識構成型社会科授業モデル ーポートフォリオによる知識構成過程のメタ認知ー

藤本 将人 (長崎大学 大学教育機能開発センター)  
福田 正弘 (長崎大学 教育学部 初等教育講座)

キーワード オーセンティック・アセスメント理論 社会科 ポートフォリオ  
構成主義 メタ認知

## I. はじめに

我が国における「客観テスト」では「テストのためのテスト」といわれるような、かなり作爲的な問題を子どもたちに課す場合が多い。「客観テスト」でよい成績をおさめたとしても、それは学校の中でしか通用しない特殊な能力を評価したに過ぎず、生きて働く学力を形成したという保証にはならないのではないかという疑問や批判が生まれている。そのような状況のなかで「客観テスト」に代わる、子どもたちの本当の学力をみとる授業構成と評価方法の開発が求められている。

現在の我が国におけるこのような評価の実態を、アメリカ合衆国は 1970 年代から経験し、すでにこの課題を克服すべく新しい学問を発達させている。いわゆるオーセンティック教授学である。

オーセンティック教授学とは、「大人が仕事の間や市民生活の間、個人的な生活の間で試されている、その文脈を模写」<sup>1)</sup> しつつ評価を行うことを主張するものである。これは構成主義的学習観を基盤とし、他者の生み出した知識の単なる再生やそれに対する応答ではなく、知識そのものを生み出す作業を授業に取り込むことで、これまでの学びを変革させていこうとする考え方である<sup>2)</sup>。

オーセンティックな学びを保障する手立てとして、これまでパフォーマンス、模擬裁判、議論、ポートフォリオといった方法が考えられてきた。そこでは授業で扱う内容そのものを作り出す授業が組織され、いわゆる社会諸科学の知識に加え、それらを生み出してきたスキルを生徒に授けることが重要視されている。しかし、社会諸科学の知識を生み出すスキルの教授とは、一体何をどうすることなのだろうか。またスキルに特化して教授する授業の特質は何だろうか。

この課題を解くためには、次の点を踏まえた分析が求められよう。

- 1). オーセンティック概念に基づき開発された社会科プロジェクトの中から、スキルが明確な形で扱われ、しかもそれが育成の主要な対象となっているものを選定し、分析対象とする。
- 2). 選定された社会科プロジェクトの目標を明らかにすることによって、そ

のプロジェクトが育成を目指す学力の内容を明確にする。

- 3). 明確にした目標の具体的な達成過程を、選定された社会科プロジェクトの実践を再現・分析することを通して考察する。
- 4). 上記の成果に基づいて、分析対象とした社会科プロジェクトで育成された学習者の思考を明らかにする。

本研究は、構成主義社会科評価論の教科論的本質を体系的に明らかにすることを目的とした継続研究の一環である。本稿では、Pierce, Preston E. *Their Story, Our Story, History: An Authentic Assessment Project for Early Secondary U. S. History Classes*, ERIC DOCUMENT, 1997 (以下、本プロジェクトとする) を分析対象とし、構成主義社会科の授業構成モデルを教授・学習過程として再現し、スキル育成の特質を考察する。

## II. 本プロジェクトが育成を目指す学力

本プロジェクトは、生徒が初等から中等学年へと進級するにあたり、オーセンティックの文脈を定着させる必要に応じて作成されたものである。本プロジェクトは、ニューヨーク州カリキュラムとそれを反映させて作られたテキストとスキル・レッスンのフレームワークに対応させて作成されている。授業の期間は1年間と設定され、まずスキルを獲得するためのフレームワークが提供された上で、学校を超えて学習活動を行うように組織化されている。

「オーセンティックの文脈を定着させる」という目的をもって開発された本プロジェクトの目標のうち、特に教科論的な視点に立った目標としては、次の点が記述されている。

「このプロジェクトでは、これまで様々なテキストに掲載されてきたスキルを扱った授業において、多分に見過ごされてきた類のスキルを授業で取り扱っている。生徒は、現在を価値付けるために、これらのスキルを応用することが求められている。そして、これらのスキルを応用させる経験を累積的に積ませることによって、最終的な作品を創り上げる方法を教えることを目的としている。

生徒には 2 種類の課題、つまりテキストの教材に対して帰納的、または演繹的な根拠付けを与えることによって、論理と推論について教えることと、新しい知識を発生させる機会を提供することを保障している。生徒は最終的な作品を創り上げるために学習した内容を使えば、これまでの伝統的な研究方法までも説明できるということに気づくことができるだろう。<sup>3)</sup> (下線は筆者による。)

上記の記述を、「本プロジェクトが育成を目指す学力」という観点から解釈すると、四つの内容について言及されていることがわかる。第一に、スキルを身に付ける目的は、「現在を価値付ける」ためにあるということである。このような目標が立てられるのは、オーセンティック概念が、現在の社会の状況を模写し教育内容とすることで、現在社会で行動できる人間を育成しようとしていることに由来する。仕事場や市民生活、個人的な生活の場で実際に何ができるかが問題とされているのである。

第二に、スキルを身に付ける目的は、「最終的な作品を創る」ためである。「最終的な作品」とは、後に挙げられるある家族の歴史についてのレポートを作成する課題のことを指している。生徒はプロジェクトの最終段階で、ある家族の行動が、歴史的事象によってどのように影響されたのかを明らかにすることになる。このような目標が立てられるのは、オーセンティック概念が、スキルを獲得することによって知識自体の構成を目指していることに由来する。

第三に、スキルを身に付ける目的は、「論理と推論について教える」ためである。子どもは教師に教えられる以前から、世界について何らかの知識を持ち、自分なりの解釈や説明を持っている。しかし、新たに接した事態がそのような解釈や説明とは矛盾した場合、往々にして子どもはその事実を無視してしまいかねない。このような目標が立てられるのは、オーセンティック概念が、子どもの内にある解釈で説明がつかなくなった場合に、自分なりの解釈の問題点を自覚した上で、意図的にそれを組替えていくことを目指していることに由来する。説明のつかない解釈を乗り越えるためには、知識を構成するための方法論を身につけることが必要となる。

第四に、スキルを身に付ける目的は、「伝統的な研究方法を説明する」ためである。これは教育的な営みの過程で、バイアスがかかった見方が注入されるという状況を徹底的に排除することを意味している。このような目標が立てられるのは、オーセンティック概念が、科学の成果に頼り、知識を選ぶという行為もまた一つの立場表明であると捉え、科学そのものも持っている思想性を対象化して理解することを目指していることに由来する。バイアスから徹底的に逃れるためには、知識の構成過程を対象化するための方法論を身につけることが必要となる。

本プロジェクトでは、以上の四要素を学力として設定している。

### Ⅲ. 目標に到達させるための具体的な手段ーポートフォリオー

本プロジェクトでは、ポートフォリオに情報とアイデアを収集・保管させることによって、生徒独自の新たな知識を創出させようとしている。ポートフォリオ

については、既に我が国でも紹介され、日々の授業で実践されつつある。その理論的先導者の西岡加奈恵は、ポートフォリオ及びポートフォリオ評価法を次のように定義している。「ポートフォリオとは、子どもの『作品』(work)や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などをファイルなどの容器に蓄積・整理するものである。ポートフォリオ評価法とは、ポートフォリオづくりを通して子どもの自己評価を促すとともに、教師も子どもの学習と自分の指導を評価するアプローチであり、『真正の評価』や『パフォーマンスに基づく評価』の典型的な方法」<sup>4)</sup>である。

以下、本プロジェクトにおいて例示されている授業を再現・分析し、授業構成モデルとして確定していこう。

## 1. ポートフォリオに収集する情報の種類

本プロジェクトでは、育成を意図するスキルに対応させ情報を収集させている。授業を再現するにあたり、先にスキルの事例を紹介しておきたい。本プロジェクトには次の八つのスキルが設定されている。

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| ①インタビュー・スキル         | ⑤グラフ作成のスキル        |
| ②図書館で資料収集するためのスキル   | ⑥データベース検索のスキル     |
| ③目録を利用するためのスキル      | ⑦一次資料から情報を読み取るスキル |
| ④マイクロ出版物を利用するためのスキル | ⑧地図作成のスキル         |

## 2. 教授・学習過程の再現

【表】は、本プロジェクトに例示されている授業を、筆者が教授・学習過程として再現したものである。授業は大きく「導入」「展開 1」「展開 2」「展開 3」の四つの部分から構成されており、これらを明示するために表の左列に「パート」として示している。「教師の指示・発問」「教授・学習活動」は教材の指示を要約するかたちで示し、「資料」の欄では各スキルを獲得するときに用いられる教材を挙げている。「子どもに習得させたい知識・求める活動」は、各教材から筆者が内容を確定して示している。「パート」内の記述及び「知識構成過程のメタ認知」の欄は、筆者の分析によるものである。以下、教授・学習過程に沿って具体的に説明していこう。

### 1). 課題の把握と分析対象を選定する過程

「導入(課題の把握)」のパートでは、これから自分たちが一年間どのような学習をしていくのか、取り扱う題材は何か伝えられる。具体的には、様々なスキルを用いて情報を集め、その情報の解釈をもとに家族の生活に関するレポートを作成することが課題として伝えられる。現在、地域の人々や自分の家族の生活は

どのようなものであるのか、またそのようになっているのはなぜなのか、を家族史に関するレポート作成を通して探求することが伝えられる。またレポートを作成する際には、ポートフォリオを用いることが伝えられ、評価の対象とするために、集めた情報や書き溜めたアイデアをその中に保管するように伝えられる。

「導入（分析対象の選択）」のパートでは、家族史を作成するにあたり、対象となる人物が選択されている。生徒は【資料】にある「作業を指示するためのルーブリック」の記述をもとに、ビクターかファーマントンにある共同墓地に行き、そこである程度長生きした人の墓を見つけ出し、その人物の家族史を作成することを決定する。生徒は対象となる人物の墓の写真を撮り、教材（情報シート）に記載された問いに答えていく。そして記載された情報シートは、ポートフォリオに保管される。

「導入（リサーチ・スキルの種類の確認）」のパートでは、これから家族史のレポートを作成するにあたり用いるであろう八種類のスキルが提示される。そして、各スキルに対応した教材の存在が伝えられ、スキルを獲得しながら、自分独自の視点で家族史のレポートを作成していくよう伝えられる。

このように「導入」のパートでは、授業で扱われる課題の把握と分析対象の選定及びリサーチ・スキルの提示が行われている。

## 2). 既存の知識（情報）が構成された過程を対象化する過程

「展開1（インタビュー・スキルの獲得）」のパートでは、選択された人物やその人物が生きた時代の様子を良く知っている人に対し、実際にインタビューを実施する。ここではインタビューを通して既存の知識（情報）を収集することが目指されている。インタビューで交わされた会話をテープに録音し、後に生徒はレポートを作成するなかで、収集した知識（情報）の中から自分が理解できたことを自分の言葉でまとめ直し、知識を再構成させている。そして記録したテープとレポートの二つをポートフォリオに保管している。

「展開1（図書館で資料収集するスキルの獲得）」のパートでは、選択した人物が関係した時代やコミュニティについて調べるために、図書館で調査を開始する。その際、図書館相互にリンクしている借用システムを利用して、本を注文することが求められ、その本から既存の知識（情報）を収集する。子どもは、レポートを作成し、収集した知識（情報）の中から自分が理解できたことを自分の言葉でまとめ直し、知識を再構成させることが求められている。そして「展開1（インタビュー・スキルの獲得）」と同じく、本から集めた知識とレポート作成により再構築した知識をポートフォリオに保管する。

以下、八つのスキル獲得の過程は同じ構造をもっている。つまり、家族史を作成するのに利用可能な知識（情報）を収集させたいうえで（「既存の知識の収集」）、集めた知識から理解できたことを自分の言葉でまとめさせ（「既存の知識の再構

成」)、集めた情報と自分がまとめた知識をポートフォリオに保管させる(「事実の保管」)のである。このような手順を各スキルごとに繰り返すことにより、既に存在している知識を対象化させ、その知識自体も人間による構成物であるということを理解させている。

### 3). 既存の知識が構成された過程を追体験する過程

「展開2(論理と推論の訓練)」では、南北戦争という具体的な歴史事象が与えられ、南北戦争が人物やその家族に対してどのような影響を及ぼしたのかを、生徒の独自の視点で考察させようとしている。その際、自分の解釈を支える根拠として、ポートフォリオに収集した情報から歴史的出来事、社会的事象、文化背景、生活様式に関する事項を三つ挙げさせている。

南北戦争の事例を踏まえ、「展開1」において対象化した知識(情報)を解釈することで、事象に対する自分独自の意味付け(「再構成した知識の解釈による独自の知識の創造」)を行おうとする。加えて、自分が創った知識に対して本当にその解釈が正しいのかを自分で検証させている(「独自の知識の検証」)。

このような学習を経験させるのは、時代の解釈も構成物であることに気づかせるためであり、「展開2」では既存の知識が構成された過程を追体験させている。

### 4). 創造した子ども独自の知識を体系化する過程

「展開3(最終試験)」のパートでは、収集した知識(情報)、教材の質問に基づき再構成した知識(情報)、論理と推論の訓練で創作した解釈を全て用いそれを体系化することによって、取り上げた人物に関する家族史を実際に叙述させている。これまでの学習でポートフォリオに収集された情報は各人によって異なり、ゆえに出来上がる家族史のレポートも各人によって全て異なったものとなる。家族史について、自分の意見を反映させたレポートを完成させることができれば、第八学年の最終試験を突破したことになり、生徒は中等学年に進学できる学力に到達したと判断されることになる。

## V. オーセンティック概念におけるスキル育成の特質

### — 知識構成過程のメタ認知 —

本プロジェクトが例示する授業では、家族史に関するレポートを作成するなかで、「既存の知識の収集」「既存の知識の再構成」「事実の保管」「再構成した知識の解釈による独自の知識の創造」「独自の知識の検証」「創造した知識の整理・体系化」の六つの段階を追って学習を行わせていた。この六つの段階は、独自の視点で「事象に対して意味を付与する」過程となっている。授業においてこのような作業を保障することにより、事象に対して意味をつかまえる力、つかまえた意味を連結させる力、そして連結させた意味を体系化することで、事象に対する新

たな解釈を生み出す力を育成している。

「事象に対して意味を付与」してきた生徒の活動過程は、用意された六つの段階に応じてポートフォリオに記録・保管されている。生徒は、各学習の過程と最終レポートの執筆時にポートフォリオに収集した情報を振り返る。このことは、生徒がこれまでの知識の構成過程を俯瞰することにつながり、つまりは、学習において知識構成過程をメタ認知させているといえることができる。

授業においてこの六つの段階を保障するということは、生徒の学力を段階的に育成することを可能なものとし、同時に教員に対しても段階的な指導を可能なものにする。またこのことは、授業のプロセス評価が可能であることをも意味している。その意味で、レポートを作成するという「最終試験」は、結果だけを求めるのではなく、過程も含めて評価する試験になっていると判断できるだろう。

## VI. おわりにーオーセンティック・アセスメント論に基づいた評価の可能性ー

このような取り組みの中で生きて働く学力を育成しようとする根底には、オーセンティック概念に基づく主張が流れている。つまり、①社会学者が形作ってきた客観的知識でさえも、実は人々の外部に存在する事実を客観的に説明したのではなく、帰属する社会や個人の見解に基づいて構成された社会的な構築物として取り扱い授業構成をすべきだという主張、②その際の授業は教師と生徒との協同作業による知識創造を行い、評価を指導と学習自体を構築するための手段にすべきだという主張、③これまで学校教育の中で行われていた児童生徒の学習活動は、普段の生活から切り離された学校という特別な環境の中で展開されてきたため、本来の学習の姿からは隔たったものであるため、社会の文脈を組み込んだ実際のプロジェクトの活動に実践的に関わっていくことで学習を構成すべきだという主張、に由来している。

こうした考えは、現在の我が国が抱えた、客観テストに代表される儀式化した評価に対する危機感を克服するための有効な手段となり、日常の授業場面に即した生きて働く学力をみとる評価の可能性を示唆するものとして考えられよう。

---

1) Wiggins G, *Educative Assessment : Designing Assessment to Inform and Improve Student Performance*, Jossey-Bass Publishers, 1998, p24.

2) Newmann, F. & Archbald, D., "The Nature of Authentic Academic Achievement" in Berlak, *Toward a New Science of Educational Testing and Assessment*, State University of New York Press, 1992, pp. 71-83.

3) Pierce, Preston E. *Their Story, Our Story, History : An Authentic Assessment Project for Early Secondary U. S. History Classes*, ERIC DOCUMENT, 1997, p3.

4) 西岡加奈恵著『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法 新たな評価基準の創出に向けて』図書文化, 2003, P39.

表 ポートフォリオを用いた授業の教授・学習過程

パート	教師の指示・発問 (要約)	教授・学習活動	資料	子どもに習得させたい知識・求める活動 (要約)	知識構成過程のメタ認知
導入	<p>課題の把握</p> <p>◎これからあなたたちは、社会科第8学年の最終テストを受けることとなります。様々なスキルを用いて家族の生活に関するレポートを作成することが課題です。現在、地域の人々やあなた自身の家族の生活はどのようになっているのでしょうか。また、なぜそのようになっているのでしょうか。1つの家族を取り上げて、その家族の家族史を作ることでこの課題を解いてみることにしましょう。</p> <p>・これから家族史を作るにあたって、情報を収集し、その情報に対するアイデアを書き溜めていくこととなります。集めた情報や書き溜めたアイデアはこれから配るポートフォリオに保管しておくようにしましょう。最終レポートは、ポートフォリオに保管した情報とアイデアをもとに作成することになるからです。またポートフォリオの内容は、評価の対象にもなるということを知っておきましょう。</p>	<p>T: 課題を説明する</p> <p>P: 課題を把握する</p> <p>T: ポートフォリオの説明をする</p> <p>T: 評価対象の説明をする</p>		<p>・家族史の作成を通して、自分の家族の生活を理解できるようにならなければならないこと。</p> <p>・ポートフォリオの使い方。</p> <p>・ポートフォリオは評価の対象にもなるということを知る。</p>	
	<p>分析対象の選択</p> <p>・これからあなたが調べる人物を選択しましょう。ピクターか、ファーミントンにある共同墓地に行きなさい。そしてそこで長生きした人(1865～1900年に生きた16歳以上の大人)の墓を見つけること。それらの人は、1865年に生きている必要はないし、1900年に死んでいる必要はありません。(例えば、1850年に生まれ、1890年に死んでいる人は選択することができない。また1875年に生まれ、1920年に死んでいる人にも選択の制限がかかる)</p> <p>・書かれていることを読めるようにするため、墓の写真を取りなさい。</p> <p>・情報シートを完成させなさい。</p> <p>・集めた情報や書き溜めたアイデアをポートフォリオに保管しておきましょう。</p>	<p>T: ループリックで作業過程を指示する</p> <p>P: ピクターかファーミントンにある墓地に人物を探しに行く</p> <p>P: 写真を撮る</p> <p>P: 情報シートを完成させる</p> <p>T: 指示する</p>	<p>資料(作業を指示するためのループリック)</p> <p>資料(ポートフォリオに収納する情報シート)</p>	<p>・ピクターかファーミントンにある共同墓地に行く。</p> <p>・年代に合致する人を選択する。</p> <p>・墓の写真を撮る。</p> <p>・墓の名前、墓の立地、選択された墓の人名、墓とその人物を選択した理由、墓に書かれた家族の名前、その他の付加的な情報をシートの問いに則り記述する。</p> <p>・ポートフォリオに保管する。</p>	
	<p>リサーチ・スキルの確認</p> <p>・最終レポートを作成するために必要なリサーチ・スキルを確認しましょう。ここでは8つのスキルを示しておきます。それぞれ探求するスキルには、ポートフォリオに収納するためのレポートが存在します。それらの存在を確認しなさい。</p>	<p>T: 説明する</p> <p>P: スキルの種類を確認する</p>		<p>・用いるスキルには①インタビュー、②図書館の貸し借りシステムの利用、③目録の利用、④マイクロ出版物の利用、⑤グラフの作成、⑥データベース検索の利用、⑦一次資料による原典の確認、⑧地図の作成、がある。</p>	



展開1	インタビュー・スキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを行う人物の選択基準を確認しなさい。口頭インタビューを行い、それをテープに記録しなさい。</li> </ul>	T: 指示する P: インタビューする		<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した人物、その配偶者、子どもまたは孫が生きていた時代のコミュニティについて語れること。</li> <li>その家族が所属していた集団について語れること。</li> <li>選択した人物や家族が通っていた学校について語れること。</li> <li>選択した人物や家族が明らかに参加していた出来事について語れること。それは世界大戦、恐慌、重要な選挙などが含まれる。</li> <li>人物やその家族の仕事の種類、またはその仕事の時間について語れること。</li> <li>家やレジャー活動を含む興味について語れること。</li> <li>Yes や No で答えられる質問を避けるようにインタビューする。</li> </ul>	既存の知識の収集	構成された過程の対象化
		<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューの内容に応じて、「インタビュー・レポート」を完成させなさい。</li> </ul>	T: 指示する P: レポートを作成する	資料 (インタビュー・レポート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを行った人の氏名、人物の選択理由、インタビューから得た情報、インタビューに際しての問題、その問題を克服した方法、インタビューする人が内包する問題、上記の問題を克服するための手立て、インタビューで得た情報を最終レポートで利用する方法、をシートの問いに則り記述する。</li> </ul>	既存の知識の再構成	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報や書き溜めたアイデアをポートフォリオに保管しておきましょう。</li> </ul>	T: 指示する		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオに保管する。</li> </ul>	事実の保管	
	図書館で資料収集するスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用可能な図書館のシステムを確認しなさい。</li> <li>図書館相互の貸し借りシステムを用いて、本を注文しなさい。</li> </ul>	T: 指示する P: 確認する  P: 注文する		<ul style="list-style-type: none"> <li>公立図書館、地域の図書館、Junior Library Media Center で使われているBOCESシステムや大学図書館で用いられているOCLEシステム、など。</li> </ul>	既存の知識の収集	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館相互の貸し借りシステムについてのレポート」を完成させなさい。</li> </ul>	T: 指示する P: レポートを作成する	資料 (図書館相互の貸し借りシステムについてのレポート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館とメディアセンターのどちらで借りようとしたのか、手にいれるために必要な時間、図書館相互の貸し借りシステムの「最も良い」点、「最も悪い」点、研究者が図書館相互の貸し借りシステムをよく利用する理由、をシートの問いに則り記述する。</li> </ul>	既存の知識の再構成	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報や書き溜めたアイデアをポートフォリオに保管しておきましょう。</li> </ul>	T: 指示する		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオに保管する。</li> </ul>	事実の保管	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>あなたが取り上げた人物は、南北戦争時にどのような生活を送っていたのでしょうか、またなぜそのような生活を送っていたのでしょうか。選択した人物や、その家族に直接的に影響を与えた3つの観点を明らかにする必要があります。その観点を文化的要因や生活様式に基づき考察しましょう。</li> </ul>	T: 指示する	資料 (論理と推論の訓練)		再構成した知識の解釈による独自の知識の創造		

展開2	論理と推論の訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、考察を始める前に、あなたが研究しようとしている人物について答えなさい。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える	資料(論理と推論の訓練のルーブリック)	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げた人物の名前、誕生日、死亡日、性、について答える。</li> </ul>	独自の知識の検証	構成された過程の追体験
		<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げた人物の配偶者について知っていることはありますか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げた人物の子供について知っていることはありますか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げた人物に対して、あなたが主張する内容に対応する強力な証拠は何か。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した人物が、南北戦争によって一番影響を受けた点は何だといえるか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに考え答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>それはなぜそうだと いえるのか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに考え答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した人物が、南北戦争によって二番目に影響を受けた点は何だといえるか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開1のポートフォリオで収集した情報をもとに考え答える。</li> </ul>		
展開3	最終試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した人物が、南北戦争によって三番目に影響を受けた点は何だといえるか。</li> </ul>	T: 発問する P: 答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオで収集した情報をもとに考え答える。</li> </ul>	創造した知識の整理・体系化	独自の知識構成
		<ul style="list-style-type: none"> <li>それはなぜそうだと いえるのか。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオで収集した情報をもとに考え答える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年あなたが授業で学習したことを全て用いれば、地域の人々やあなた自身の家族の生活を理解することができるでしょう。あなたが授業で学んだスキルは、人々の生活がどのようにして形作られ、あなたのすむ世界がどのような理由でそうなっているのかを教えてください。今年あなたが集めた家族史ポートフォリオの情報、スキルを用いた検証作業を経ることによって意味を付与することができ、結果、1つの家族の話を作り上げることができるようになるはずです。さあ、「最終試験」を突破するために、あなたが選んだ人物の家族史レポートを作成しましょう。</li> </ul>	T: 説明する T: 指示する P: レポートを作成する	資料(社会科学第8学年最終試験ーリサーチ・プロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートにおける評価の視点を理解しておく。(・ポートフォリオのために開発した事実、考え、論理、その他の材料を用いること。・出来事や考えによって、家族が影響された方法を明らかにすること。・今年、あなたが経験した8つのリサーチ・スキルの各々を利用することによって、情報を得たということ、明確に、また間違えようのないように示すこと。・レポートの要素を確認すること。・テキストの出来事や考えによって、あなたの家族が影響された方法の議論。・あなたが用いたスキルの説明。最終レポートの作成にあたり、情報を得る為にどのようにして8つのスキルを用いたのかを説明すること。結論。脚注を用いていないのなら、巻末の注を用いること。参考文献)</li> </ul>		

(Pierce, Preston E. *Their Story, Our Story, History: An Authentic Assessment Project for Early Secondary U. S. History Classes*, ERIC DOCUMENT, 1997 をもとに筆者作成。「知識構築過程のメタ認知」の欄は筆者の考察による。)

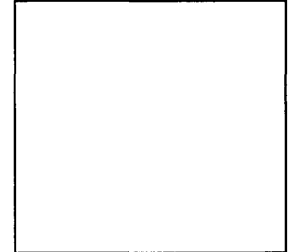
## 資料 作業を指示するためのルーブリック

氏名 \_\_\_\_\_

学期 \_\_\_\_\_

### 共同墓地への訪問 と 実生活情報シート

#### 評価規準の段階（ルーブリック）



総合評定

1. ビクターやファーミントン（もしくはそれ以外の条件を満たす）の墓を訪れ、ある人物の墓を選択できたか。

墓の条件：

- a 自分の家族が眠っている墓であること。そうすると自分の家族史について懸命に取り組むことになるだろう。その場合、自分の両親のどちらかにあなたが家族史について作業をするということを確認してもらうこと。
  - b 墓がビクターやファーミントンの敷地内にあること（例えば、ブッシュネルの地など）
2. 選択された人物，墓，そして訪問について，情報シートが完成されていること。信頼性を高めるために，情報シートは読みやすく，インクで書かれなければならない。わかりにくいマークや芸術的なマーク，スペルの間違い，複数回折りたたむといった事は止めること。
  3. 選択された墓の写真プリントを提出すること（もし必要ならば，後の段階でも提出されるものである）。
  4. この課題のすべての部分は期限までに完成されること。  
期限は \_\_\_\_\_ までである。

(Pierce, Preston E. *Their Story, Our Story, History: An Authentic Assessment Project for Early Secondary U. S. History Classes*, ERIC DOCUMENT, 1997, p. 6 をもとに筆者作成。)